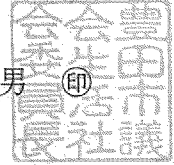


平成25年8月30日

豊田市議会議長 杉浦弘高様

生活社会委員会
委員長 加藤 和男



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日程 平成25年7月30日(火)～8月1日(木)
- 2 派遣先及び内容
30日(火)…富山県富山市/水道水のペットボトル販売
31日(水)…新潟県柏崎市/災害に強い地域づくり
1日(木)…東京都世田谷区/自転車利用憲章
- 3 派遣委員
委員長 加藤 和男
副委員長 伊井 房夫
委員 松井 正衛 都築 繁雄 太田 博康
吉野 博子 古木 吉昭 青山さとし
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行者/川北 尚志 佐嶋 晃

視察報告書【1】

氏名 加藤和男

委員会名	生活社会委員会
視察日時	平成25年7月30日(火) 午後 2時00分 ~ 3時30分
視察先・概要	富山県富山市 人口:420,529人 面積:1241.85km ²
視察内容	水道水のペットボトル販売
選定理由	平成15年無償及び有償販売を開始。2013年モンドセレクション金賞を受賞。豊田市は「とよた水物語」の販売計画を検討中のため、富山市の取組み状況を視察。
豊田市の現状と課題	豊田市は、「水道水の安全性」、「おいしさ」のPRのため、足助地区から採水した水を利用し、「とよた水物語」として、市民参加のイベントにおいて無償配布を実施している。 保存期間が5年と長期保存の利点を生かして災害防災用を目的に販売を検討。 課題は、販売網、商品PR、生産ロット数などの検討。
視察概要	○販売の経過、事業概要を始め、今後の展開と課題について。
評価とその理由	○平成10年度「缶詰」から「ペットボトル」に変更し、無償と有償販売を開始。平成24年度、ソフトドリンク部門にて、金賞受賞。翌年、「2013モンドセレクション」最高金賞受賞。 ○販売面において、平成25年20,000本の製造実績(製造単価90円)だが、収支面は今一である。水道事業全般からは、富山市の水道事業は黒字だが、合併町村は、簡易水道であり、公会計制度の見直しに合わせた統合後の収支は不明とのこと。 ○また、水利権は、上限はあるものの有している。人口、面積、予算規模など類似面も多く、ともに中核市・環境モデル都市としての類似点も多く参考とすべき点が多い。
本市に反映できること	○豊田市では、給水人口は増であるが、市民の節水意識などで、使用水量の減少が続いている。また、消費者は、富士山の湧水、富山のような立山アルプスの湧水など、ブランド志向が強く、当市の利点は保存年数が5年(通常は3年)と長く、その特徴を生かしたブランド化が必要であり、そのためには、容量も目的にあった容量が必要と考える。
その他 (意見・課題など)	○水道局として、水道は生活インフラの源であり、健全な経営を図るためにも、使用による収益が上がる点と、あわせて、さらなる効率および改善に努めて、料金体系の安定を期するものである。

視察報告書【2】

氏名 加藤和男

委員会名	生活社会委員会
視察日時	平成25年7月31日(水) 午前11時00分 ~ 正午
視察先・概要	新潟県柏崎市 人口: 89,430人 面積: 442.70 km ²
視察内容	災害に強い地域づくり
選定理由	北鯖石コミュニティ振興協議会は、中越地震により、自主防災組織により、地域に密着した活動を展開されている。本市は「自助・共助・公助」を基本とした防災活動を掲げており、今後の活動について振興協議会の活動が参考となるためと考えたため。
豊田市の現状と課題	豊田市は、自主防災会の活動支援を事業補助や備品購入など購入金額の1/3を補助している。また、組織率は自治区100%で329組織あり、大地震が想定されている本市にとって自主防災の活性化、共働による防災力の向上とあわせて「地域の絆」を深めるための活動が必要と思われる。
視察概要	<p>○柏崎市は、東電の柏崎刈羽原子力発電所が立地しており、現在は稼働停止のため、駅前の再開発事業も停止しており、街全体がシャッター通りとなっている。</p> <p>○第15回防災まちづくり大賞で消防庁長官賞を受賞した「顔の見える活動で災害に強い地域づくり」を実践されている北鯖石コミュニティ振興協議会の取組み内容。</p> <p>○柏崎市は、31の小学校があり、小学校単位でコミセンが設置され、拠点として活用されている。</p> <p>○北鯖石コミュニティ振興協議会は、委員65名・常任委員21名、地域・学習・福祉・健康・子どもなど専門部会員60名で構成されており、市より活動補助金・運営費の一部が補助。</p> <p>○町内会費とは別にコミュニティ会費として1家あたり4000円負担し、センターが運営されている。</p> <p>○北鯖石地域は、集落が5つ、幼稚園と小学校が1つ設置されている地域出、核家族化が進み、高齢化率も35%となっている。</p>
評価とその理由	<p>○「ながらパトロール」「災害時の対応マップ」、「中学生とともに作成したもしもBOX」など、取組みが交流館活動と連携しており、地域の防災意識は高いと評価。</p> <p>○中越地震の被災地域のため、被災を受けた地域ならではの取組、備えが感じられ、本市のように被災を受けてない地域としても参考になる意識や有事に即した対応と思われる。</p>
本市に反映できること	<p>○豊田市では、防災スピーカーにより全地域への情報伝達を行なっているが、周知手段としては不完全と思われる。</p> <p>○有事の際、住民の安否確認についても、個人情報などにより、全体の掌握が難しく、防災組織・自治区・民生委員・行政など関係セクションの情報の共有化が必要。</p>
その他 (意見・課題など)	○被災地としての意識・地域連帯が、柏崎市には、強く感じられたが、本市としても、想定される大災害に対応した住民の連帯意識を始め、組織運営・防災訓練についても、「自助・共助・公助」の協力により、少しでも減災できる体制づくりが必要。

視察報告書【3】

氏名 加藤和男

委員会名	生活社会委員会
視察日時	平成25年8月1日(木) 午前10時00分～午前11時30分
視察先・概要	東京都世田谷区 人口：866,063人 面積：58.08 km ²
視察内容	自転車利用憲章
選定理由	区民の自転車利用について、ルールの順守、マナー向上により、自転車事故を減らし、安全で安心な地域社会の実現を世田谷区は目指しており、本市の交通安全施策の参考とするため。
豊田市の現状と課題	本市は、自転車を活用したまちづくりにむけ、環境モデル都市の一環として、CO ₂ 削減もあわせて自転車活用の推進を進めている。平成24年の交通事故は、2311件のうち、自転車関連事故は312件(約14%)。死傷者数からみると、全体2779人、自転車関連321人(約12%)。今後、世田谷区のような取組により、自転車利用の増加、事故の減少及びマナーの向上により、交通事故トップ都市としての汚名の返上を期待する。
視察概要	<p>○近年、自転車事故が増え、悪質な自転車運転者の賠償金も高額となってきている。</p> <p>○世田谷区は、世田谷署、北沢署、成城署、玉川署があり、平成24年度事故状況として、件数2836件、内自転車件数は1128件(39.6%)と増加し、都内ではワースト1。</p> <p>○そのため、平成24年自転車の交通ルールを守る意識向上を図り、事故防止のための「自転車憲章」を制定。</p> <p>○自転車の取締強化、自転車道の整備、走行ルールの教育など安全教育及び区民の共通の規範、思いやりなどルール順守と合わせて安全で快適なまちづくりを目指す。</p>
評価とその理由	<p>○健康維持及び都心特有の交通渋滞等により、自転車の利用が増えている。</p> <p>○世田谷区は、ロータリークラブから、自転車の寄贈を受け、4ヶ所の駅でレンタサイクルを実施。</p> <p>○都心密集地のため、土地保有は難しく歩車分離などの整備は困難であり、交通ルールについても道路交通の規則があり、区独自の罰則を含めた条例化は難しい現状である。そのため、交通意識の向上とあわせたルール規範として憲章を制定したことは評価する。</p>
本市に反映できること	<p>○豊田市の交通事故の特徴は、交通弱者と位置づけられている高齢者と自転車関連事故の割合が高い。</p> <p>○ルールなど意識面の向上を図る憲章と合わせて、自転車道の整備両面対策が必要と思われる。</p> <p>○自転車利用者の大半は、中・高校生などの若者であり、警察・学校・行政が連携した自転車安全教育の推進。</p>
その他 (意見・課題など)	○憲章、システムをグッドデザイン賞に応募して、受章するなど、市民の意識向上などに役立てることも検討の余地がある。